

【第3報】2021年度尾道市立大学入学者選抜方法等の変更について（予告）

平成 31年 3月 28日

尾道市立大学 学長 中谷 武

2021年度の入学者選抜（2020年度実施）実施方法の変更について、次のとおり予告します。

なお、内容は現時点のものであり、今後変更する場合があります。より充実した変更に向けて今後も継続的に検討します。

1. 見直しの趣旨

本学の入学者選抜において、「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」、「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」等の学士課程教育に関する基本方針を踏まえ、

「学力の3要素」である

- ①基礎的知識・技能
- ②思考力・判断力・表現力
- ③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

を総合的・多面的に評価できる入学者選抜を実施するために、必要な見直しを行うものとします。

2. アドミッション・ポリシーについて

2021年度以降の本学のアドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）を次のとおり変更します。

尾道市立大学アドミッション・ポリシー

尾道市立大学の教育は、専門の学芸と幅広い教養を身につけ、知的能力および豊かな人間性を発揮できる人材を育成すること、また、地域社会との連携・交流を重視し、広く地域に開かれた大学として芸術文化の向上と産業の活性化に貢献できる人材を養成することを目的としています。

この目的を達成するため尾道市立大学は、次のような人の入学を期待しています。

- ・ 学問や芸術を学ぶことを通じて、豊かな心と幅広い視野を持ちたいと願う人
- ・ 知と美に対する探究心と創造意欲のある人
- ・ 専門的知識・技能を身につけ、地域社会や国際社会に貢献したい人
- ・ 何事にも好奇心をもって積極的に挑戦し、自己の目標に向かって不断の努力をする人
- ・ 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ人

【経済情報学部 経済情報学科】

経済情報学科は、経済、経営、そして情報の3分野を併せて学ぶことを特徴としています。基礎的理論と実践的・応用的知識を兼ね備え、主体性をもって自ら問題を設定し解決することで、現代社会のニーズに応えられる人材、社会貢献や地域貢献ができる人材の育成を目標としています。その目標のために経済情報学科では、入学までに「基礎学力である高等学校等で学ぶ国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語の知識」を身につけていることが必要です。特に、問題分析力につながる「基礎的な数学力」、情報収集やコミュニケーションにつながる「英語力」を身につけていることが必要です。

このような教育理念・目標に基づき、経済情報学科は次のような人を求めています。

- ・日常生活の経済現象に関する基礎的な考え方や理論を理解し、各種資料や経済統計を活用して実際の経済を分析し、経済問題を世界的観点から考えて責任ある選択・意思決定ができるようになりたい人
- ・経済社会を支える企業活動の現実を直視し、企業経営に関する理論や分析手法を幅広く学んだうえで、その成果を組織の仕組みの改善に活かしたい人
- ・現代社会の基盤となっている情報システムやネットワークの基本原理を学び、その成果を駆使して社会問題の解決や日常生活の利便性を向上させたい人

【芸術文化学部 日本文学科】

日本文学科の教育理念は、日本の文学や言語についての専門的知識や芸術文化への理解など、幅広い視野と深い教養、また高い言語能力を身につけた人材を育成し、人々の精神生活を豊かにし、社会の発展に寄与することにあります。

また、本学科の教育目標は、しっかりとした基礎学力の上に、広く芸術や文化を学びながら日本文学と日本語学の専門分野での研究を深めることで、優れた言語運用能力・論理的思考力・分析力を身につけた、諸共同体のリーダー、教育者、研究者等これからの社会の形成を担う人を育成することです。

このような教育理念・目標に基づき、日本文学科は次のような人を求めています。

- ・従前の教育課程等において確かな国語の力を身につけた人
- ・問いをもって対象に向き合い、論理的に思考し判断する力を鍛えてきた人
- ・知的探究心をもって日本語・日本文学を深く研究していく意欲がある人
- ・文学作品のもつ多様な価値観を柔軟に受け止められる人
- ・高度な読解力・表現力・対話力を身につけ、その力を活かして協働的に社会に参画する意欲がある人

【芸術文化学部 美術学科】

美術学科の教育理念は、美術における専門家として持続的に造形活動に携わり地域や社会の文化・芸術に寄与する人材を育成することにあります。

学生諸君の美に寄せる豊かな個性を尊重しつつ、専門的知識・技術、芸術文化の理解、幅広い視野を身に付けさせ、専門的な実技教育を行うとともに学生相互の切磋琢磨の機会を設けることで、本学科の教育目標である、作家やデザイナーとして、あるいは美術教員や学芸員等として、持続的に美術に携わることのできる人材の育成を目指しています。

このような教育理念・目標に基づき、美術学科は高校までの学修を通して培った理解力、思考力と美術の基礎的な表現力を前提とした上で、次のような人を求めています。

- ・ 美術への広い視野を常に持ち、自らの能力を高めていこうとする強い意欲のある人
- ・ 自らの信念を持ち、将来にわたってそれを持続していける人
- ・ 自己の可能性を信じ、その具現化に対しての努力を惜しまない人

3. 入試区分の名称変更

入試区分の名称を次のとおり変更します。

- (旧) 推薦入試 → (新) 学校推薦型選抜
- (旧) 一般入試 → (新) 一般選抜

4. 学校推薦型選抜について

学校推薦型選抜の選抜方法について、次の事項を追加、変更します。

【経済情報学部 経済情報学科】

経済情報学部経済情報学科では、調査書における学習成績の状況を点数化します。

【芸術文化学部 日本文学科】

芸術文化学部日本文学科の学校推薦型選抜の選抜方法について、次のとおりとします。

- ① 「学修調書（学びの履歴と計画）」の事前提出
- ② 「面接試験」を「口頭試問」に変更
- ③ 「調査書」の点数化

出願の際に提出された調査書における「国語の学習成績の状況」について点数化します。

【芸術文化学部 美術学科】

芸術文化学部美術学科では、調査書における指導上参考となる諸事項を点数化します。

5. 一般選抜について

一般選抜の出願資格・選抜方法について、次のとおりとします。

(1) 出願資格

一般選抜において、次の出願資格を追加します。

【経済情報学部 経済情報学科】

CEFR (Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment : 外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠) における「A2」以上であること (なお、同等の学力があることを示す、学校長の証明に替えることも可)。

【芸術文化学部 日本文学科・美術学科】

CEFR (Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment : 外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠) における「A1」以上であること (なお、同等の学力があることを示す、学校長の証明に替えることも可)。

(2) 選抜方法

一般選抜の入学者の選抜は、2021年度大学入学共通テスト(国語及び数学については記述式問題含む)と、本学が行う個別学力検査(美術学科においては、実技検査)および調査書等(出願者本人が記載する資料等も含む)の内容を総合して行います。

1 記述式問題の活用

大学入学共通テスト「国語」については、記述式問題も評価の対象に加えます。

大学入学共通テスト「数学」における「数Ⅰ、数Ⅰ・数A」については、記述式問題を含めた点数を合否判定に利用します。

2 調査書の活用

経済情報学部経済情報学科では、調査書における学習成績の状況を点数化します。

芸術文化学部日本文学科では、調査書における学習成績の状況を点数化します。

芸術文化学部美術学科では、調査書における指導上参考となる諸事項を点数化します。

3 取得資格・検定合格実績等の活用

経済情報学部経済情報学科において、一定の資格を取得している者に対してその証明書を出願書類とともに提出することを条件に加点します。

4 「学修計画書」の活用

芸術文化学部美術学科では、「学修計画書」の提出を課し、その内容を評価し点数化します。